

健康 コラム

新型コロナ感染が広がってから、歌うこと、一緒に演奏することがむずかしくなりました。音楽は「不要不急」のもの？いえいえ、音楽は、健やかで心豊かな日々をおくるための栄養源です。



▲本学附属発達科学研究所主催公開講演会「音楽と人間・音楽と教育」チラシ

音楽とヒト

世界中のどの地域にも、必ず音楽があります。歌わない文化、楽器をもたない文化は古今東西、ひとつとしてありませんでした。

子どもの発達についての研究によれば、赤ちゃんは、母親の胎内で聞いていた音を好む、という結果が出ています。また、赤ちゃんは、周りの大人と声をやりとりすることで人とつながる力を育てていくといわれます。音楽は、「不要不急」どころか、人間が社会のなかで生きていくために必要不可欠のものといえるでしょう。



▲エスポワール フォレ

東北に住む私たちにとって、決して忘れることのできない東日本大震災。あれから10年が過ぎました。震災直後から今日まで、どれだけ多くの方が音楽によって慰められ力づけられてきたでしょう。音楽を聞くこと、そして自ら歌うこと演奏することで、前へ進む

力をかき立てた経験をお持ちの方も、きっと少なくないと思います。

宮城学院女子大学は、音楽科を擁する大学として、音楽を通しての震災復興プロジェクトを複数おこなってきました。大学を巣立ったあとも、その経験を生かしている卒業生が多くいます。アンサンブルグループ「エスポワール フォレ（希望の森）（本学音楽リエゾンセンター「楽友ネットワーク」会員）はそのひとつ。自ら被災者だった当時の学生を中心にしたグループで、演奏活動を通して、決して平坦ではない地域の復興の道なりに寄り添い続けています。また、本学音楽リエゾンセンターの認定演奏員となった卒業生も機会をみつけては震災復興の催事で演奏しています。人と人とのつながりをつくり、前を向くエネルギーをうみだす音楽の力は、困難なときほど生きるものかもしれません。

音楽と 震災復興



▲2021年3月11日、仙台国際空港に設置されていた「復興ピアノ」を演奏する認定演奏員

癒しの音色のご紹介

世界にはさまざまな楽器があります。音色もさまざま。ストラディヴァリウスのヴァイオリンやシュタインウェイのピアノなど、技術の粋を集めた楽器の響きは、それはそれは素晴らしいもの。でも一方で、素朴な作りから生まれる音色で、心を柔らかく満たしてくれる楽器（音具）もあります。たとえば、これ。南米やアフリカで使われてきたレインスティック。傾けると、中に入っている小石や貝殻が内側の針に当たって、まるで水が流れ落ちるような音がします。それもそのはず、もともとは雨乞いの儀式で使われるものでした。動画配信サイトで音を聞くことができます。シンプルな作りなので、作り方を紹介したサイトもあります。心が乾いたな、と感じるとき、こんな音で潤してみたいかがでしょう。



▲レインスティック